

## 平成26年1月21日(火)実施 第1回 地域公共交通分科会の総括

平成26年3月19日(水) 15:45～  
於：西宮市職員会館 3階 大ホール  
第3回 西宮市都市交通会議

西宮市 都市計画課

### ◆ 第1回 地域公共交通分科会(1/21)の開催趣旨

#### 第1回 地域公共交通分科会の目的

住民組織である「ぐるっと生瀬」運行協議会(準備会)が企画している運行計画について協議を行い、関係者の了承を得ること。

#### 当該分科会に対する市のねらい

- 本市において、コミュニティ交通に関する初の地域住民が主体の取り組みであるため、関係者間で情報共有が必要と判断。
- 万一、運行欠損金が発生した場合、市は補填金の拠出を行う予定であるため、関係者および市民合意が必要と判断。
- 今後の本格運行への移行時に必要となる関係者協議および市の支援制度の検討に向けた布石。

## ◆本市「コミュニティ交通検討事業(H23～)」

### ① 背景

本市においても、超高齢社会の到来が迫る中、全国的にも導入事例の多いコミュニティバス等に対する住民要望が増えつつあり、新たな交通手段の導入可能性について検証を行う必要が生じている。

### ② 位置づけ

西宮市地域公共交通総合連携計画では、交通利便性の改善について、**既存のバス路線による対応が困難な場合には、地域に応じた交通手段を検討すること**としており、本事業はその趣旨に沿ったものである。

### ③ 事業の進め方

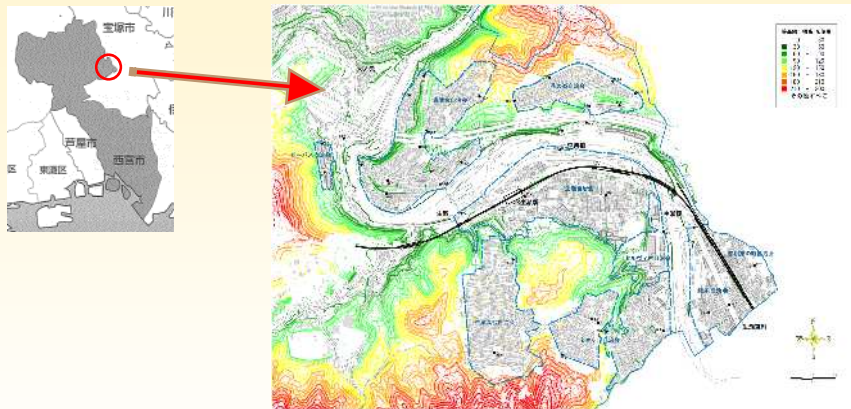
コミュニティ交通を導入する一部の地域住民への受益が、全体から見ると不公平との観点も考慮すべきであるため、**地域主体の取組みと行政による支援という形態を執り、受益者となる地域住民にも応分の負担を求める事業とする。**  
また、地域主体の取組みという、本市ではこれまでほとんど事例の無い事業となるため、**既存のバス路線による交通利便性の改善が難しいと考えられる地域のうち、地域内の65歳以上人口の割合、直近鉄道駅あるいはバス停からの地形の高低差の大きさ、該当地域での具体的な取り組み状況といったことを総合的に勘案した結果、「生瀬地域」を重点検討地区として選定を行い、パイロット事業として進めていくこととする。**

### ④ 事業内容

地域の住民組織が主体となった運行及び運営計画の検討に対する各種支援を行い、地域の現状を踏まえた適材適所の持続可能なコミュニティ交通の実現可能性を検証する。

- 市から住民運行組織への支援
  - ・活動内容に関する助言、関係機関及び団体との連絡調整等
  - ・学識経験者等の派遣費用の負担
  - ・社会実験 運行経費欠損額に対する助成
- 住民運行組織が主体となった運賃有料社会実験の実施及び検証(3ヶ月程度)
  - ・運行計画の作成及び運行事業者の選定
  - ・西宮市都市交通会議での関係者協議
  - ・国土交通省近畿運輸局 許認可申請
  - ・本格運行時(通年)に移行した場合の収支採算性、地元の実施体制を検証 ⇒ 本格運行 支援判断(市)
- 行政支援制度の検討(導入基準、運行継続基準、補助金上限額等)
  - ・コミュニティ交通の運行を主体的に考える地域に対する適切な支援制度の検討

## ◆生瀬地域現状 - 地理・人口状況



平成25年9月30日現在

区域等	世帯数	人口	年少人口 (0~14歳)	生産年齢人口 (15~64歳)	老年人口 (65歳以上)
生瀬地域	3,680	8,871	1,209	5,321	2,341
全市	214,412	482,227	72,315	308,541	101,371
生瀬地域/全市(%)	1.71	1.84	1.67	1.72	2.31

生瀬地域高齢化率：26%

※西宮市高齢化率：21%

出典：西宮市登録人口(町別年齢別)

## ◆ 「ぐるっと生瀬」運行協議会(準備会)の概要

### 構成員

○以下の生瀬地区の主要地縁団体の代表で構成。

・生瀬地区自治会連絡協議会 役員	8名
・社会福祉協議会	2名
・校区老クラブ連合	2名
・旧「生瀬住民のお出かけの足を考える諮問会議」	6名
・その他推薦	1名
	計19名

### 平成25年度活動状況

・会議	13回(H25.5～H26.3、運行事業者選定含む)
・先進事例視察(応神バス：徳島市)	1回(H25.9)
・運賃有料試験運行(現在実施中)	20日間(H26.3.3～31、平日のみ)

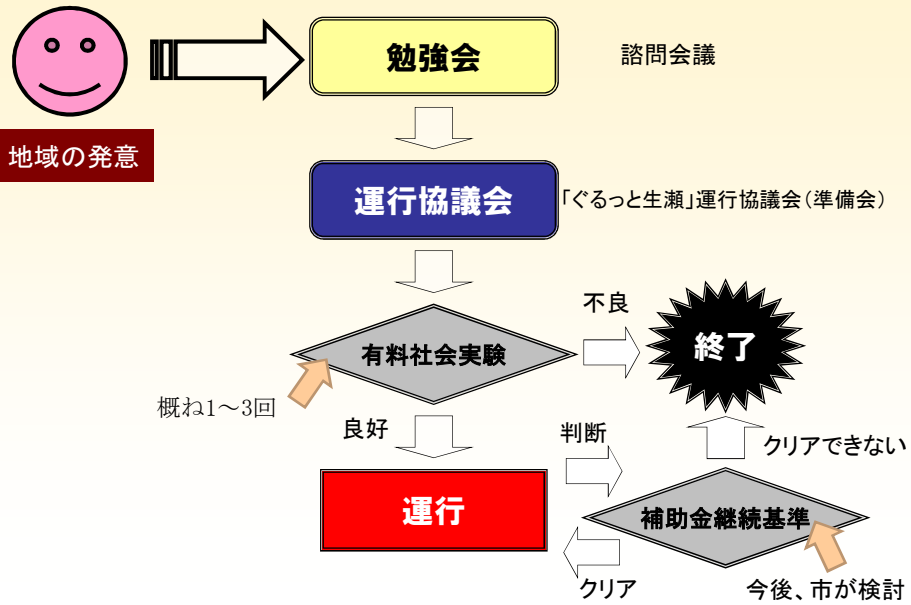
## ◆ 運賃有料試験運行(現在実施中)の概要

### 運行計画概要

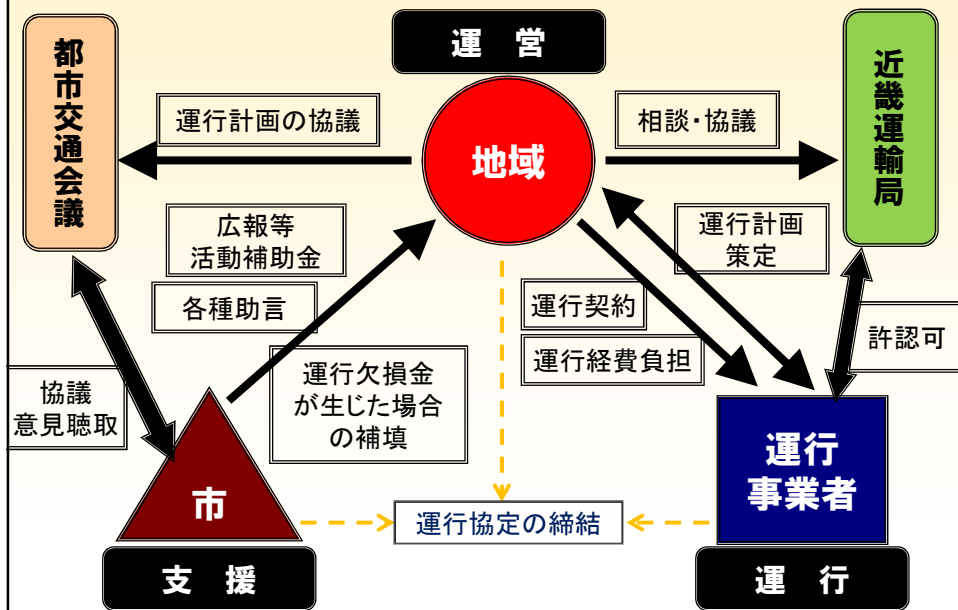
- 実施主体 : 「ぐるっと生瀬」運行協議会(準備会)
- 運行事業者 : 阪急タクシー(株)
- 運行期間 : 平成26年3月3日(月)～31日(月)の平日のみ(20日間)  
※3月2日(日)にオープニングセレモニー開催
- 路線 : JR生瀬駅を起終点とする6ルート
- 運行便数 : 各コースそれぞれ4便(始発：8:30、最終到着：16:25)
- 運賃 : 大人200円均一、小人(3歳～小学6年生まで)100円均一  
幼児(3歳未満)2人までは無料、その他の優遇制度なし
- 車両 : ジャンボタクシー1台(9人乗り)



### ◆ コミュニティ交通 導入へ向けた基本的な流れ (案)



### ◆ 運賃有料社会実験 事業イメージ (三者協働)



## ◆ 運賃有料社会実験の目的等 (H25～26 概ね1～3回)

### 目的

- 運行実績(利用状況)の把握
- 運行実績(利用状況)に基づいた運行計画及び資金収支計画の検証
- 本格運行に移行した場合の事業継続性の検討
- 運行実績(利用状況)に基づいた本格運行に移行した場合の市運行支援制度及び財政支援基準等の検討

### 運行経費の負担割合

- 運行経費の不足分(運行欠損金)が生じた場合には、市が補助金を拠出
- 経費負担割合は、協議会・事業者・市で、運行協定を締結

運行経費	市の補助
	協賛金
	運賃収入

## ◆ 当該分科会 (1/21) での主な質疑応答 - 1

### 「ぐるっと生瀬」運行協議会(準備会)に対するQ&A

- 運行経費における協賛金とは何か。  
→当運行に賛同してもらえる住民や事業者の方から、支援金という形で集めるものと考えている。
- 起終点について、なぜJR生瀬駅にしたのか。  
→コミュニティ交通導入の目的を、まちづくりの一環として考えており、JR生瀬駅を起終点に地域内を循環することで、地域がまとまることを期待しているためである。
- 乗客対象は、高齢者等の交通弱者などの特定の人を予定しているのか。  
→コミュニティ交通導入の目標は、生瀬地域の活性化であるため、乗客は、地域住民全員を対象としている。
- ルートと便数について、各住宅地の人口にバラツキがあるにもかかわらず、同じ設定にしている理由は。  
→住宅地毎の利用状況の比較も行いたいと考え、今回の運行計画となった。
- 利用状況の把握について、性別や年齢別などの調査もするのか。  
→実験後にアンケート調査を予定しており、具体的な内容については今後検討していくが、性別や年齢については調査項目として考えている。



## ◆ 今後の検討スケジュール

### 平成26～27年度概略スケジュール

- ①H25.3月運賃有料試験運行 運行実績(利用状況)の検証
- ②再試験運行(1～3ヶ月：前回検証に基づく)
- ③再試験運行 運行実績(利用状況)の検証／市運行支援制度及び財政支援基準等の検討
- ④西宮市都市交通会議地域公共交通分科会での協議
  - ⇒【市】運行支援制度及び財政支援基準等の設定
  - ⇒【「ぐるっと生瀬」運行協議会】本格運行に対する意向確認
  - ⇒【市】運行支援制度の適用判断
  - ⇒【運行協議会&市】本格運行移行への是非判断
- ⑤本格運行への移行が是と判断された場合
  - ⇒ 本格運行計画(案) 策定
  - ⇒ 本格運行事業者 選定(プロポーザル方式選定など)
  - ⇒ 本格運行計画 関係者合意(西宮市都市交通会議地域公共交通分科会)
  - ⇒ 本格運行計画 許認可(法4条：国土交通省近畿運輸局)
  - ⇒ 本格運行 実施
  - ⇒ 本格運行 運行実績(利用状況)の検証
  - ⇒ 本格運行 継続判断(西宮市都市交通会議地域公共交通分科会)